

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成21年度 富山高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動の充実
重点課題	家庭学習時間の充実と授業改善
現 状	4月と9月に実施している本校の「学習生活実態調査」によれば、家庭学習時間は1週間の平均で1、2年生が3時間余り、3年生が4時間前後である。生徒の家庭学習時間を充実させるためには、質の高い、また一方で理解しやすい授業展開に努める必要がある。
達成目標	① 家庭学習時間の1週間の1日あたりの平均時間(継続) 4時間程度
	② 授業についての満足感をもつ生徒の割合 90%以上
方 策	<p>1 家庭学習時間を保障する環境を整える。</p> <p>2 教員の共通理解の下、面接などを通して、生活習慣の見直しや改善をはかるよう指導する。</p> <p>3 意欲的に学習に取り組むことができるよう、課題の与え方に工夫をこらす。</p> <p>4 本校の教育課程(7限授業など)について、研究をすすめる。</p> <p>1 互見授業など様々な機会をとらえて教員の授業力向上に努める。</p> <p>2 教員の作問能力を向上させるとともに、生徒の学習意欲を喚起するような指導法の研究に努める。</p>
達成度	<p>・4月の学習生活実態調査の結果()は昨年度 1年:3時間19分(3時間16分)、2年:3時間3分(3時間23分)、3年:3時間52分(4時間7分)</p> <p>・9月の学習生活実態調査の結果()は昨年度 1年:2時間48分(3時間9分)、2年:2時間35分(3時間12分)、3年:4時間33分(4時間34分)</p> <p>調査の日程の関係で平日休日など昨年と変化があり、単純な比較はできないが、学習時間に関しては、昨年度とそれほど大きな違いはないと思われる。</p> <p>これまでも生徒対象のアンケートを行い、授業の感想を授業改善に役立ててきたが、その中で授業についての満足度を尋ねたところ、93.2%の生徒が「満足している」「おおむね満足している」という回答をした。</p>
具体的な取組状況	<p>・学習生活実態調査の結果を学級保護者会や学年保護者会で報告し、家庭学習の進め方や課題の量などについて説明し、保護者の方の理解や協力が得られるように努めた。</p> <p>・生徒の実態について学年会で協議し、問題点を共有するように努める一方、個々の生徒の実態に即した面接を心がけた。</p> <p>・教育課程委員会等で本校のカリキュラムについて協議した。</p> <p>・互見授業や外部講師による授業力・作問力向上セミナーへの参加、進路指導支援費の補助を戴いての夏季セミナーに多くの教員が参加して、授業力・作問力など教科指導力の伸張を学校全体で目指している。</p>
自己評価	<p style="text-align: center;">C B</p> <p>継続課題である家庭学習の時間は、なかなか目標を達成できていない。一方授業の満足度は、おおむね達成していると思われる。</p>
保護者学校評議員などの意見	<p>・時間の使い方を指導していくことが必要である。</p> <p>・4時間という時間設定は必要である。</p> <p>・時間の多少のみで評価するのではなく、内容(質)で評価できる工夫が今後大切である。</p> <p>・いかに自分で時間を管理できたかを見る視点も必要ではないか。事前に計画を立て、どれだけ実行できたかを自分で評価し、次の計画に発展させていくPDCAの視点があればよい。</p>
次年度への課題	<p>・生徒個々の学習に対する取り組みに差異がみられ、課題の与え方などを抜本的に見直したり、担任だけでなく各教科担当者が、個々に話を聞く機会を今以上に増やしたりする必要がある。教員のコーチング技能を高めることが今後より一層重要になると考えられる。</p> <p>・新しい学習指導要領に実施に向けて、教育課程の研究をさらに進める必要がある。</p>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校生活の充実
重点課題	生徒に対する積極的な教育支援
現 状	昨年度の取り組みにより、望ましいストレス対処を身に付けることのできた生徒の割合は54.2%となった。しかし、残る半数の生徒は、身につけたいという気持ちはあるものの実際には難しく、「疲れている」「頑張れない」と、自分を責めるというような対処しかとれずに悩んでいる様子がうかがえた。本校生はさまざまな良い点を持っていながら、自己肯定感はやや低いと言える。
達成目標	自分のことや自分に起きた出来事に対し、受け取り方を変えてみることでできた生徒の割合 70%以上
方 策	1 ストレスや悩みを抱えている生徒に対し、生徒支援プログラム(講習会)の実施や教育支援だよりの発行などによって、それらに対処するための具体的、体系的なスキルをまず知識として与え、その後、実際に体験させる。今年度は、出来事の受け取り方を変えるスキルについて学習させる。 2 スキルを学習し、実際に体験したことによって、生徒にそれらを活用しようとする気持ちが起こり、実際に活用することができたかを調査する。 3 現在特別な葛藤がない生徒に対しても、開発・予防カウンセリング教育として実施する。
達成度	・生徒支援プログラム(講習会)実施直後に、生徒に対してアンケートをとった。 「考え方を理解することができましたか。」(とても、まあまあ)1学期83%→2学期84% 「今日学んだことは、これからの生活に役立ちそうですか。」(とても、まあまあ)1学期80%→2学期85% 「自分のことや自分に起きた出来事に対し、実際に受け取り方を変えてみることができましたか。」(できた、まあまあ)2学期92% 生徒の感想「最近いろいろ思うことがあったので、いい講習会でした。なかなかかなりたい自分になるのは難しいけれど、ポジティブに考えていかないと、と思います。」「あこがれの人や尊敬する人の良いところを、実は自分自身も持っているのだと思えば、何でもできるような気がします。」
具 体 的 な 取 組 状 況	・1・2学期に、スクールカウンセラーの岡田浩子先生をお呼びして、「リフレイン」及び「セルフ エスティームを育てる方法」について生徒支援プログラムを実施し、生徒に実際に効果を体験させた。 ・毎月生徒支援だよりを発行し、生徒に具体的なスキルについての知識を与えた。また、今年度から設けた、先生方に自らの体験を語っていただく試みは、毎回生徒に非常に好評だった。 ・1・2学期に、教員を対象に研修会を開き、カウンセリングに関するスキルの向上を図るように努めた。 ・教員が生徒にどう働きかけていくかを話し合機会の一つとして、スクールカウンセラーの岡田浩子先生を囲んでの研修会を数多く設定した。
自己評価	B 生き方のスキルをその場限りのものに終わらせず、生徒の身につくように絶えず呼びかけていく必要がある。
保護者 学校評議員 などの意見	・このようなメンタル的支援は今後とも継続的に取り組んでほしい。 ・繰り返すことで効果が持続すると思う。 ・自分をコントロールする力が必要である。 ・保護者への講演会などがあればよい。
次 年 度 へ 向 け て の 課 題	生徒の自己肯定感、学校適応感を高めていくことは、生徒の、学校に行きたいという気持ちを根底で支えるものと思われる。次年度もこの方向で取り組みを続けていきたい。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	進路支援の充実
重点課題	高い目標の実現に向け努力する生徒の育成
現 状	生徒の中には、自己の進路目標をただ漠然とした憧憬や感覚だけで決めている者がいる。自己の特性や成績などをしっかり考慮し判断していない面が見うけられる。そのため、志望も変わりやすく取り組みも不十分である。このような生徒に将来の目標を真剣に考えさせ、その実現に向け熱意をどう持たせるかが課題である。
達成目標	各自の進路目標達成に向けて努力した度合いを自己評価し、努力したと答えた生徒の割合 80%以上
方 策	1 キャリアガイダンスや進学講演会などを通して自己の目標設定やその達成のための取り組み方を提示する。 2 面接を通し、個々の悩みに的確なアドバイスを与えるなど、生徒の気持ちの切り替えや自立を促す。 3 学年末に3年生生徒に対してアンケートを実施し、今年一年の努力の度合いを(よく努力した・努力した・やや不足した・不足した)の4段階で自己評価し、達成目標の指標とする。
達成度	3年生全員を対象としたアンケートの結果は、「よく努力した」が48%、「努力した」が38%で、合わせると86%となった。
具 体 的 な 取 組 状 況	・キャリアガイダンスでは1年生の希望者も参加できるようにした。また、前年よりも早く8月に実施し、生徒の進路目標の早期決定に参考となるようにした。進学講演会については保護者にも参加してもらい、家庭での進路について共通の話題が持てるようにした。このように、できるだけ効果的になるように工夫を取り入れた。 ・面接指導も年間計画で標準的な回数を設定してはいるが、担任の判断により必要であれば随時実施してもらい、生徒へのアドバイス等も適切に行えるように学年会等で共通理解を図った。
自己評価	A
	・2月中旬に行った3年生に対するアンケートの結果、86%の生徒が努力したと回答したので、当初の目的が十分達成できたと判断した。早くから自己の目標を明確にし、それに向け努力することの大切さを担任や教科担当者による面接等により指導できたことが効を奏したと考えられる。不得意分野の克服補講等については、受講者の53%の生徒が満足しており、不満(10%)と答えたものがあるものの、生徒は実施に否定的でないことが判った。これと同時に発展的補講についてもほぼ同程度の回答が得られており、これについてもよい評価が得られたものと思われる。 ・さらに、「富山高校に進学し3年間を過ごせて良かった」と回答している生徒は92%であった。
保護者 学校評議員 などの意見	・自己評価以外の指標は考えられないか。 ・キャリアガイダンスのような自己の進路について早い段階から考える機会を今以上につくってほしい。 ・将来像を見すえたきめ細かな進路指導を望みたい。 ・1, 2年生にも自己評価をすればどうか。
次 年 度 へ 向 け て の 課 題	生徒や保護者に高評価を得たキャリアガイダンスをこれまで以上に充実させ、早い時期からの進路設定を促したい。また、進路指導の成果を把握する指標の設定を研究する必要がある。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	特別活動の充実	
重点課題	ホームルーム活動への意欲的な取り組み	
現 状	ホームルーム活動は特別活動の重要な部分を占めているが、週1時間のホームルームの時間は学校行事や学年行事で使われることがあり、その残りを各クラスのホームルーム委員が中心となって計画的に実施している。しかし、その内容はレクリエーションが多い状況である。このホームルームの時間の活性化を図るためには、何が必要なのかを考え、対策を練ることが必要である。	
達成目標	① HR委員会の開催	② HRに対する評価
	前・後期に3回	満足度 80%以上
方 策	学期に3回HR委員会を実施し、HR委員が自覚を持って行動し、また、他のクラスと情報交換ができる場を設定する。 1 HR計画の作成依頼 2 HR計画調整・連絡 3 学期の終わりに反省会・アンケート調査	1 HR計画の立案を担当、学年HR担当と打ち合わせを行って実行する。 2 計画実施前に、施設、準備の確認を行う 3 HR日誌の活用をはかる。 4 学期の終わりに、HR委員による評価(アンケート調査)を行う。
達成度	HR委員会は、前・後期に3回ずつ行った。 アンケート調査は前期は10月に、後期は2月にHR委員が集まり実施した。 1. HR計画の立案を担当と相談して行ったか 前期 85% → 後期 60% 2. 計画実施前に施設・設備の準備の確認を行ったか 前期 70% → 後期 60% 3. HR日誌を活用したか 前期 33% → 後期 11% 4. HR委員としての満足度は何%か 前期 63% → 後期 72% アンケートは、1～3に対しては、 ①大変良くできた ②まあまあできた ③あまりできなかった ④かなりできなかった のうち、①と②の合計の割合を、 アンケート4に対しては、 ①100% ②80% ③60% ④40% ⑤20% ⑥0% から選択したものの集計で行った。	
具 体 的 な 取 組 状 況	HR委員会は前期・後期ともに3回ずつ実施した。特に後期HR委員に対しては、HR計画作成依頼の委員会で、計画立案の際の注意事項について説明した。また、新しいHR日誌を配布し、それを利用して計画・立案・実施を行い、事後に記録をとるように指導した。	
自己評価	A	C
	HR委員会は3回ずつ行ったので、この目標は達成した。 実際のHR委員の活動については、HRの計画作りにある程度ルール(指針)を作り、生徒が考えやすいようにした。また、今まで活用しづらかったHR日誌を、スタイルを変えて使いやすいものにした。HR委員の活動に対する満足度は%は少しは上がったが、前期に比べてまだ活性化が図られたとはいえない。各クラスで話し合いにも取り組んだが、なかなか意見がでなかったとの報告もある。また、学級閉鎖により、計画的に進まなかったクラスもあった。	
保護者 学校評議員 などの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・HR委員以外の生徒の協力が必要である。 ・HR委員会の回数よりも中身が重要なのではないか。 ・HR活性化のために何が必要で対策は何だったかが分かりづらい。 ・HR活動が活性化すれば、クラスがまとまり相乗効果で学ぶ意欲も高まると思う。 	
次 年 度 課 題	HR委員会の中で他の学年・クラスと意見交換できる場を設ける。HR日誌は、HR委員が毎回の活動記録を残すように粘り強く指導する。計画・準備をもっとしっかり、早くからすれば良かったという意見が多かったので、HR日誌を利用することによって、計画性が少しでも高くなるようにしたい。HR計画の立案だけではなく、実施にむけてHR委員が動きやすくなるようなアドバイスも必要と感じた。また、評価としてHR委員だけでなく、クラスの生徒の評価も調べる必要がある。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	信頼される学校づくり
重点課題	本校の教育活動の取り組みへの理解を深める
現 状	本校では、「公開授業」、「中学生保護者への学校説明会」、「むつみ会(PTA)委員会」、「学年保護者会」などを通して、本校の教育方針や進路指導・教科指導などの学校経営計画について説明を行っている。また、体育大会や文化活動発表会などの学校行事には保護者に足を運んでもらうよう呼びかけ、様子を見てもらっている。保護者の学校への要望を把握するとともに、今後さらに学校開放を進め、本校の教育活動への理解を深めていくことが必要である。
達成目標	本校の教育活動に対する保護者の満足度の割合 80%以上
方 策	1 今まで以上に保護者の来校を促し、本校の教育活動を知ってもらうために、ホームページの充実を図るなどPRに努める。 2 PTA活動の充実を図るよう努める。 3 12月の個別保護者会で「本校教育活動についてのアンケート」を実施し、保護者の満足度を調査し、今後の教育活動に活かす。
達成度	12月の個別保護者会で、保護者全員の方を対象としてアンケートを実施した結果は次のとおりであった。(質問;()は「そう思う」、「とてもそう思う」を合わせた割合) (1)学校の指導方針や教育活動がわかりやすく伝えられている(90.0%) (2)学校では進路指導が適切に行われている(91.1%) (3)学校は教科指導に熱心に取り組んでいる(93.9%) (4)学校行事は活発に行われている(91.0%) (5)学校では部活動が活発に行われている(91.3%) (6)学校では生徒指導が適切に行われている(89.4%) (7)学校は子どもの悩みや相談に親身に応じてくれている(89.5%)。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学年保護者会や学年通信などを通して、保護者の方に学年の指導方針や進路情報などを伝え、理解を求めた。 ・むつみ会委員会などでは、多くの方の参加を得て、学校の問題点や学年の実態について話す機会が持てた。 ・新型インフルエンザに係る情報は、その都度保護者の方に伝えるようにするとともに、ホームページにも情報をのせるようにした。
自己評価	B アンケートの結果、学校の様々な取り組みに対して、約90%の方が、「そう思う」・「とてもそう思う」との回答を得た。しかし、個別保護者会の待ち時間の短い時間で回答いただいたこともあり、吟味する時間が十分でなかったのではないかと思われる。また、回収率が75%と低く、全員からの意見集約には至らなかった。
保護者学校評議員などの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けの講演会やセミナーを開催し、学校の説明をする機会を増やしたらどうか。 ・学年便りなどを今以上に充実させてほしい。 ・保護者だけでなく生徒の意見も聞ければよい。 ・学校で行われていることを、すみやかに適切に開示することが保護者のみならず地域にも信頼を与える要素である。 ・回収率が75%と低いので、アンケートの方法も考える必要がある。
次年度への課題	保護者への情報発信の機会を増やすとともに、PTA活動との連携を密にする必要がある。また、回収率を上げるための方策とアンケートの質問内容を工夫し、継続的に保護者の意見を集約することが望まれる。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)